

事業完了報告書（実行団体）

事業名:	仕事が減った人と社会課題のマッチング事業
資金分配団体名:	特定非営利活動法人北海道NPOファンド
実行団体名:	NPO法人大雪山自然学校
実施時期:	2020年10月～2021年9月
事業対象地域:	北海道
事業対象者:	若者、子育て家庭、観光従事者

Version 3.2
日付: 2021年10月17日

I. 事業概要

事業実施概要	コロナ禍において社会的に孤立しがちな子育て家庭や非正規雇用者が、①子供が安心して過ごせる居場所を確保するとともに、②非正規雇用者をそのスタッフとしてマッチングを行った。特にインフォーマルな子供の居場所づくりに力を注ぎ、子供エコツアーを実施したり、東川町と連携して放課後に子供が集える場所づくりに協力したりした。子供も保護者もスタッフも安心して活動できるよう研修を充実させた。これにより、子育て家庭にとっては多様な交流の機会が増え、非正規雇用者は子供や地域とつながりのある活動で収入を得ることができた。非正規雇用者の仕事は、保育現場だけではなく、親子が訪問する森や山の遊歩道整備といった観光地における環境整備等多岐にわたり、個人の興味や特性に合った現場と研修機会を提供した。
--------	--

II. 課題・事業設計の振り返り

課題設定、事業設計に関する振り返り	新型コロナウイルスにより子供が自宅にいる時間が長くなり、ストレスの蓄積や体力低下など成長や健康への悪影響や地域とのつながりが減ることを心配した子育て家庭は多く、子供の居場所づくりと非正規雇用者をマッチングさせるという課題は適切であった。子どもたちのプログラムなどへの参加者は、当初設定の100人に対し、272人となり、非正規雇用者とのマッチングは当初設定の10人に対し、11人となった。経済的困窮者となる懸念があると考えていた非正規雇用者に関しては、主婦/主夫にはあまりリーチできなかったが、主に失業や仕事が減っていた観光従事者、大学生にリーチできた。しかし、度重なる緊急事態宣言の発令の影響で、町外・道外からの研修生の受け入れを自粛したため、一時事業が停滞しかけた。そこで北海道NPOファンドに相談して、人件費の一部を衛生費に変更する旨、承諾を得た。抗原検査キットを購入して、研修希望者に直前に自己検査をしてもらうことができ、双方安心して事業を再開することができた。
-------------------	--

III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

①受益者	②課題	③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	④指標	⑤目標値・目標状態	⑥結果	⑦考察
その他	居場所の不足	保護者とスタッフの社会とのつながりが維持される	保護者の満足度、スタッフの満足度	満足度調査70%以上	・満足度90%以上	コロナ禍において密になる危険が少ないアウトドア活動をさせたいという保護者は多く、子どもたちの満足がそのまま保護者の満足として反映された。コロナ感染対策も理解を得られた。
子ども・学生	居場所の不足	子供に居場所が提供される	子供の受け入れ人数	100名の子供が参加	・子どもの受け入れが行われた回数 34回 ・参加者数 272名	土日や長期休み中の子ども向けの自然体験プログラムや、平日の放課後活動で、想定以上の人数を受け入れることができた。放課後活動は町と連携することで、役割分担ができて活動が安定した。
コロナで影響を受ける従事者	就業困難	非正規雇用者の活動の場がある（保育現場）	指導者人数	10名以上が指導者として参画	・マッチングは（保育現場、観光環境整備合わせて）11人 ・指導者としてOJTの場44回、参加者数54名	指導者として活動するための研修の場を44回設けることができ、54名が参加した。参加者は現場で指導者としての技術を学び、子供たちが安心して過ごせる環境作りに貢献した。
コロナで影響を受ける従事者	就業困難	非正規雇用者の活動の場がある（観光環境整備）	環境整備スタッフ人数	10名以上が環境整備活動に参画	・マッチングは（保育現場、観光環境整備合わせて）11人 ・活動の場65回、参加者数164名	環境整備活動のために場を65回以上設け、164名が参画した。参加者は環境に対する意識を高めたり環境保全の技術を学んだりした。国立公園などの観光地や地元の森がきれいに保たれた。

IV. アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）*

事業実施以降に目標とする状況	当事業が見据える理想の状態は、新型コロナ問題が長期化しても、非正規雇用者のマッチングと人材育成を迅速に行い、状況に応じてインフォーマルな子供の居場所が確保される状態である。また非正規雇用者が一方的に失業するのではなく、研修や現場でのコミュニケーションを通して自己実現を応援し、地域のつながりが保たれた状態である。目標値は、200名の子供自然体験活動。非正規雇用者10名のマッチングと研修とする。
考察等	人材育成に関しては、保育活動や自然体験プログラム活動、地元の森づくり活動、旭岳や天人峡の環境整備活動など、継続して行っている活動と連動させ、幅広い分野でOJTを実施しました。子どもの居場所づくりに関しては、子供向けのエコツアーや放課後のプレイパークなど、他団体とも連携しインフォーマルな場所を確保した。非正規雇用者と地域のつながりを維持するためには、NPOサポートセンターに情報を流し、自分たちの活動を理解してもらうことをした。

V. 活動

活動	進捗	概要
■非正規雇用者の募集とマッチング	計画通り	11名の非正規雇用者とマッチングができた。ウェブサイトなどを使って広く告知をしたほか、関連団体にも声掛けをした。
■子供の居場所の提供（月に10日間以上の実施）	計画通り	緊急事態宣言や天候の影響で予定していたエコツアーの中止・遅延はあったが、子供の居場所の提供は予定数以上は実施した。
■観光地環境整備活動のマッチングと研修（基本的に無積雪期の活動。2回に分けて実施）	計画通り	降雪のため2020年秋の活動は難しかったが、2021年春以降に予定通り活動を本格化することができた。

VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

想定外のアウトカム、活動、波及効果など	マッチングした人材のひとりが特に成長し、環境保全に関するプロジェクトを立ち上げ、外部との連絡交渉や内部調整などを担う責任者を務めるまでになった。また、コロナの影響でオンライン授業となり、大学へ行けない（行かない）大学生が、本州から長期にわたって人材育成の研修に参加するのは想定していなかった。それらの大学生たちは、生活に困窮していることではなく、人とのつながりが希薄だという問題を抱えていることがわかった。研修が人材育成の側面だけでなく、人とのつながりも提供でき、より満足を得てもらうことができた。そして、保育や環境整備の分野に加えて、プロのアーティスト作品制作にきた。今後、アーティストインレジデンスにつなげていけそうな手ごたえを得た。波及効果は、地域の人が主体的にやっている環境保全活動や子供の居場所づくり、文化保全活動に若者を送れるようになったことである。フォローアップの体制を若者ととれるようになった。
---------------------	---

VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

課題を取り巻く変化	旭川NPOサポートセンターの長嶋正明氏によると、東川町や隣接する旭川市では、度重なるまん延防止等重点措置や緊急事態宣言が発令されてコロナが長期化し、非正規雇用者や生活困窮者などの状況はよくなってはいない。今回対象者として想定した人数は十分に超え、実際に研修に参加した人や子供の居場所が確保された保護者からは感謝され、ニーズはあると感じたが、さらにその先で困っている生活困窮者や本当に引きこもっている人を引っ張りだすことはできなかった。それは、自分たちがその層へのアプローチ手段を持っていない、その層向けのプログラムを用意していなかったためである。そこで今後は、その層の専門家である旭川NPOサポートセンターと協働し、2層でのプログラム展開を考えていく。ひとつめは生活困窮層へのプログラムで、まずは社会に出ることを目指すもの。もうひとつは、基本的に活発な層がさらなるスキルアップを目指すプログラム（既存のもの）である。
-----------	--

VIII. 他団体との連携

連携先	実施内容・結果
キトウシこどもの森	保育現場での研修生の受け入れを行った。
東川町子ども未来課	放課後の居場所づくり（プレイパーク）立ち上げにあたりスタッフを派遣。事業は安定し、実践的な研修の場ともなった。
旭川福祉専門学校、教育大学旭川校、NPO法人Ezrock	ボランティア活動のお知らせやボランティアに参加したい学生の紹介をもらった。
東川町産業振興課、北海道上川総合振興局、環境省東川保護官事務所	大雪山国立公園内での登山道整備や環境保全活動について、活動内容を確認しながら進めた。
川村カ子トアイヌ記念館	チセの解体などにスタッフやボランティアを派遣し、地域の文化継承に携わった。
セイヨウオオマルハナバチマスターズ、旭川市環境総務課・教育大学旭川校	外来種防除活動を行う団体と連携して防除を行った。

IX. インプット ※事業完了月の月次収支管理簿の金額を入力ください。（精算金額と一致させる必要はありません）

		計画額	実績額	執行率
事業費	直接事業費	4,023,650	4,104,251	102.0%
	管理的経費	976,350	976,350	100.0%
合計		5,000,000	5,080,601	101.6%
補足説明				

X. 広報実績

広報内容	内容
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	ウェブサイトでボランティア募集を掲載（ http://daisetsu.or.jp/volunteer2020/ ）
2.広報制作物等 当該事業費を使って制作したもの	
3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法（事例）	当事業のために購入した非接触型体温計に表示
4.報告書等	

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

①規程類※の整備実績	状況	内容
1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。	完了	
2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。		
3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。	一部未公開	定款はウェブサイトですべて公開している
4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。	変更があり報告済	

②ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1. 社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。	はい	
2. 利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	はい	
3. 関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	
4. コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置しましたか。	はい	
5. ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。	いいえ	
6. 報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 (実施予定の場合含む) (複数選択可)	<input type="checkbox"/> 外部監査	団体の監事による監査を実施し、監査報告書の提出を受けた
	<input checked="" type="checkbox"/> 内部監査	
	<input type="checkbox"/> 実施予定はない	
7. 本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、または受領していますか。	いいえ	
8. 内部通報制度は整備されていますか。	はい	